

<マニュアル訂正連絡票>

FUJITSU Software

ASP システム移行手引書 V29 (ASP E90 系/V10 系からの移行)

[J2K0-5930-01]

2020年3月31日発行

修正箇所 (章節項) : 第4章 非互換点 目次

旧記事

第4章 非互換点

この章では、旧システムから新システムに移行する場合の非互換点の概要と必要な処置について説明する。

目次

4.1 非互換一覧

4.2 ADJUSTTM コマンド

<<中略>>

4.109 SymfoNET/基本運用

4.110 PowerRW+

4.111 NSS の起動

新記事

第4章 非互換点

この章では、旧システムから新システムに移行する場合の非互換点の概要と必要な処置について説明する。

目次

4.1 非互換一覧

4.2 ADJUSTTM コマンド

<<中略>>

4.109 SymfoNET/基本運用

4.110 PowerRW+

4.111 NSS の起動

4.112 SymfoNET/DB 連携

修正箇所 (章節項) : 4.1 非互換一覧 表 4.2 非互換一覧表(続く)

旧記事

SymfoNET/基本運用	～ V22
Systemwalker ListWORKS	～ V18, ～ V22

新記事

SymfoNET/基本運用	～ V22
SymfoNET/DB 連携	～ V28
Systemwalker ListWORKS	～ V18, ～ V22

修正箇所（章節項）： 4.112 SymfoNET/DB 連携

旧記事

新記事追加

新記事

4.112 SymfoNET/DB 連携

1) 非互換点

V29 以降のシステムでは、SymfoNET/DB 連携は未サポートとなる。

2) 処置

SymfoNET/DB 連携を使用しないよう運用を見直す。

2017年4月26日発行

修正箇所（章節項）： 第4章 非互換点「4.38 PC ファイルサーバ」

旧記事

新記事を追加してください。

新記事

4.38.5 NET USE コマンド

V28 以降の PC ファイルサーバでは、NET USE コマンドを使用する際、必ず「Windows のコンピュータ名」を指定する必要がある。指定方法は以下の通りである。

```
NET USE   ドライブラベル (x: や z: など)
          ¥¥PC ファイルサーバのコンピュータ名 (または IP アドレス) ¥共有名
          パスワード
          /USER:Windows のコンピュータ名¥ユーザ名
```

修正箇所（章節項）： 4.56 Systemwalker ListWORKS

旧記事

4.56 Systemwalker ListWORKS

Systemwalker ListWORKS の移行に際しては、以下の注意事項がある。
詳細は、“ASP Systemwalker ListWORKS 説明書”を参照。

1) 機能範囲

システム共通変数@TMSROOT の値により機能範囲が以下のように異なる。

@TLIBEX の場合：

全機能使用可能

@TLIBBS の場合：

以下の機能は使用できない。

- － Web ゲートウェイ
- － 高速化ライタ
- － PDF ファイルの作成
- － 電子メール送信

2) 動作環境

旧システムから移行する場合は、サーバ動作環境定義、配信連携定義において定義を修正し、環境設定コマンドを実行する。

3) ListGateway の pollingprint.watchtime (ポーリング印刷の監視時間間隔) の初期値(※)

※ 初期値とは、ListGateway.properties ファイルに記述されている pollingprint.watchtime の値。

- ・ V22 以前の初期値は、10 (秒)
- ・ V23 以降の初期値は、60 (秒)

過去バージョンから移行する場合、V23 の ListGateway.properties ファイルをそのまま使用すると、ポーリング印刷の監視時間間隔が 60 秒になる。

ポーリング印刷の監視時間間隔の初期値変更による影響

ポーリング印刷時には、UXF ソケットを使用する。

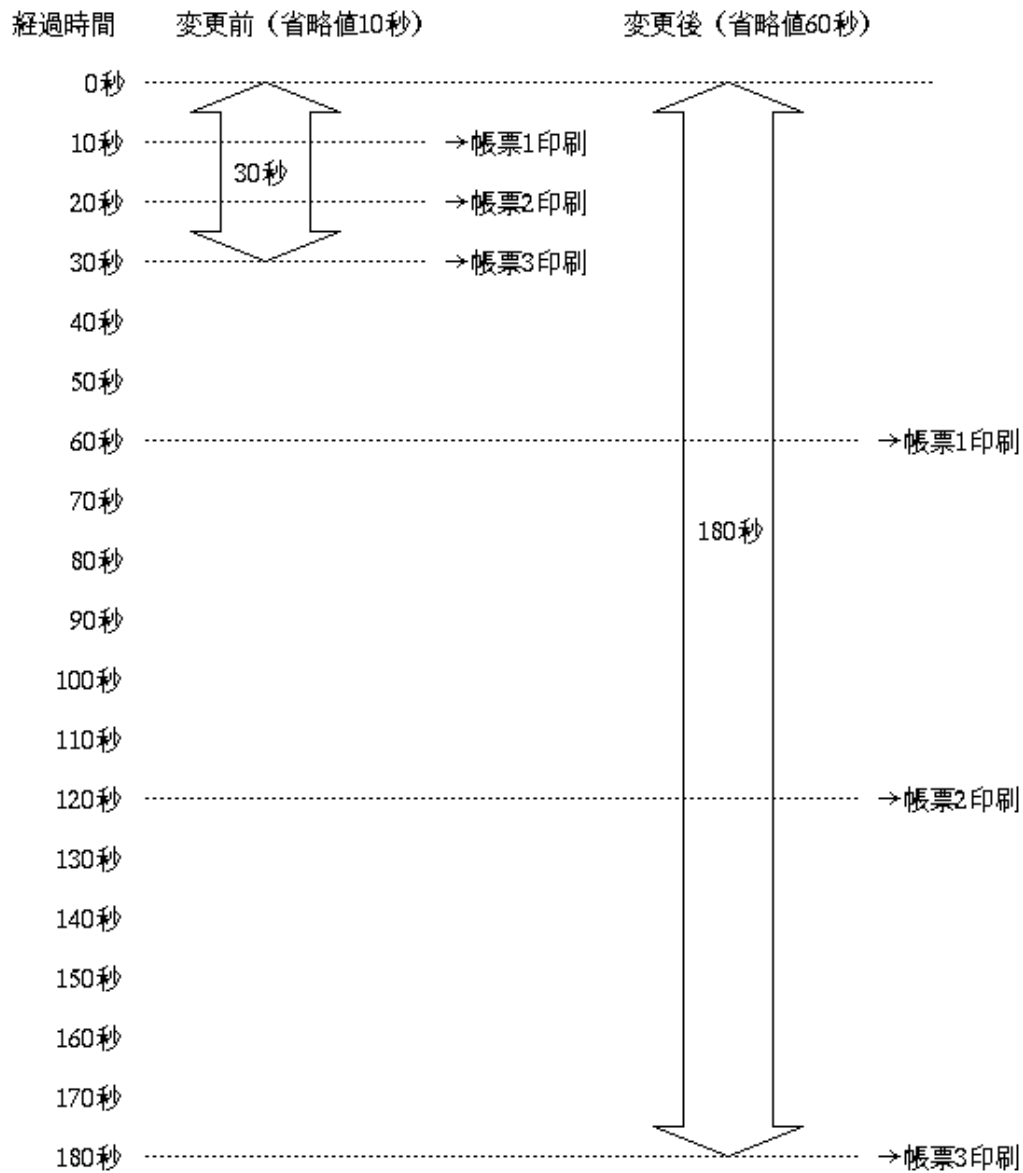
UXF ソケットは、一度使用すると 60 秒間再利用できないため、多端末でポーリング印刷を使用する場合は、以下の考慮が必要である。

- － ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」以上に設定する (V23 の初期値は「60」)。
- － ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」未満に設定する場合は、UXF ソケット数を増やす。

UXF ソケットの見積りは、“ASP ネットワーク機能解説書”を参照。

ポーリング印刷の監視間隔時間を初期値 60 秒のまま動作させた場合の影響を以下に示す。

例) ポーリング印刷対象の帳票が 3 つの場合 (帳票 1, 帳票 2, 帳票 3)



新 記 事

4.56 Systemwalker ListWORKS

Systemwalker ListWORKS の移行に際しては、以下の注意事項がある。
 詳細は、“ASP Systemwalker ListWORKS 説明書”を参照。

1) 機能範囲

システム共通変数@TMSROOT の値により機能範囲が以下のように異なる。

@TLIBEX の場合：

全機能使用可能

@TLIBBS の場合：

以下の機能は使用できない。

- － Web ゲートウェイ
- － 高速化ライタ
- － PDF ファイルの作成
- － 電子メール送信

2) 動作環境

旧システムから移行する場合は、サーバ動作環境定義、配信連携定義において定義を修正し、環境設定コマンドを実行する。

3) ListGateway の pollingprint.watchtime (ポーリング印刷の監視時間間隔) の初期値(※)

※ 初期値とは、ListGateway.properties ファイルに記述されている pollingprint.watchtime の値。

- ・ V22 以前の初期値は、10 (秒)
- ・ V23 以降の初期値は、60 (秒)

過去バージョンから移行する場合、V23のListGateway.properties ファイルをそのまま使用すると、ポーリング印刷の監視時間間隔が60秒になる。

ポーリング印刷の監視時間間隔の初期値変更による影響

ポーリング印刷時には、UXF ソケットを使用する。

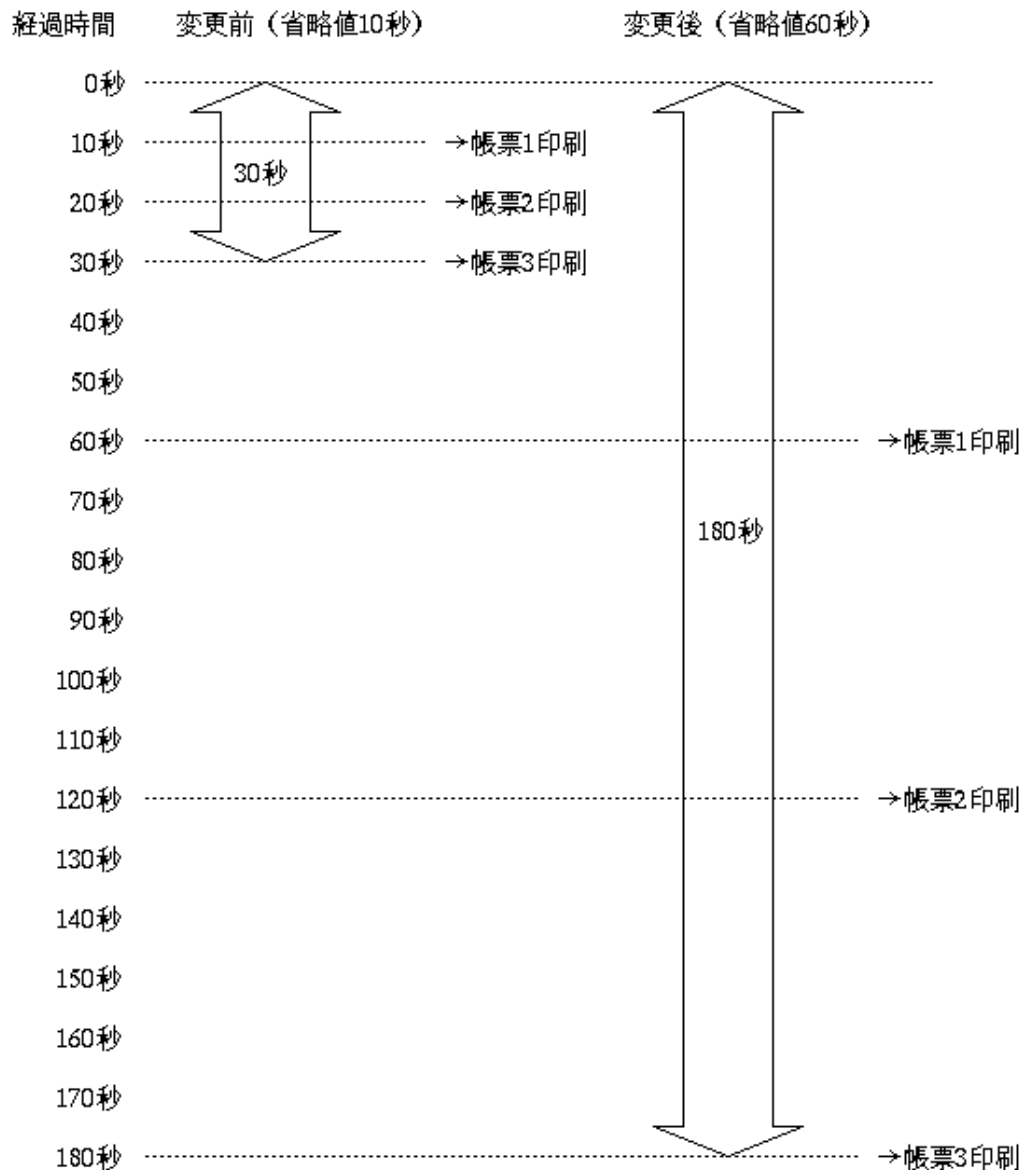
UXF ソケットは、一度使用すると60秒間再利用できないため、多端末でポーリング印刷を使用する場合は、以下の考慮が必要である。

- ー ポーリング印刷の監視時間間隔を「60」以上に設定する（V23の初期値は「60」）。
- ー ポーリング印刷の監視時間間隔を「60」未満に設定する場合は、UXF ソケット数を増やす。

UXF ソケットの見積りは、“ASP ネットワーク機能解説書”を参照。

ポーリング印刷の監視時間間隔を初期値60秒のまま動作させた場合の影響を以下に示す。

例) ポーリング印刷対象の帳票が3つの場合（帳票1、帳票2、帳票3）



4) 電子メール (e-mail) による登録完了通知と電子帳票の送信のメールの発信者

- ・ V22 以前は、“XSYSMNGR + @ + ドメイン名”
- ・ V23 以降は、“*FUJITSU + @ + ドメイン名”

2016年10月31日発行

修正箇所 (章節項) : 2.7.5 利用者定義文字の復元/設定

旧記事

2.7.5 利用者定義文字の復元/設定

CHARM ユーティリティまたは EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は、CHARM ユーティリティまたは IMPCHR コマンドで復元する。

1) CHARM ユーティリティ

CHARM ユーティリティの「退避」で退避した利用者定義文字は、CHARM ユーティリティの「復元」の機能を使って復元する。

CHARM ユーティリティの形式を以下に示す。CHARM ユーティリティの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

CHARM

2) IMPCHR コマンド

EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は、IMPCHR コマンドで復元する。

IMPCHR コマンドの形式を以下に示す。IMPCHR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

IMPCHR FILE - ファイル名 [. { @LIBL
@TEMP
ライブラリ名 }]

新記事

2.7.5 利用者定義文字の復元/設定

EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は IMPCHR コマンドで復元する。以下に IMPCHR コマンドの形式を示す。IMPCHR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

IMPCHR FILE - ファイル名 [. { @LIBL
@TEMP
ライブラリ名 }]

LAN 直結プリンタで利用者定義文字を印刷する場合、復元した利用者定義文字を、EDTJCLIB コマンドまたは ADDCHR コマンドで文字パターン辞書に登録する。EDTJCLIB コマンドや ADDCHR コマンドの詳細は、“ASP CHARM 説明書(日本語文字管理ユーティリティ)”を参照。

1) EDTJCLIB コマンド

EDTJCLIB

2) ADDCHR コマンド (登録する JEF コードをオペランドで指定する場合)

ADDCHR JEF - 'JEF コード' [,DOT - { @ALL
@D16
@D24
@D30
@D32
@D40 }] [,REP - { @YES
@NO }]

旧記事

表 2.1 利用者環境項目一覧(機種移行)

利用者環境	退避に使用するコマンド
プロフィール (システムが提供しているプロフィールおよび利用者が設定したプロフィール)	SAVPED コマンドで退避する.
ユーザ ID ファイル	E96 以降 : SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数 (値を変更後, IPL で元の値に戻る変数は対象としない)	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
利用者定義文字	CHARM コマンドまたは EXPCHR コマンドで退避する.
PLCA	E95 以降 : EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
UXF の環境定義ファイル (/etc/profile)	SAVTMBR コマンドで退避する (V14 以降) .
接続管理情報	SIP メニューの「接続管理情報の退避」で行う. またはソース形式に変換し, SAVMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書 」を参照して退避する.
Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産	SAVTMBR コマンドで退避する.
RDB 辞書	同じ磁気ディスク装置を使う場合, DLTRDD コマンドで RDB 辞書を削除する.
バックアウトファイル	DSPBOF コマンドの表示内容を控えておく.

新記事

表 2.1 利用者環境項目一覧(機種移行)

利用者環境	退避に使用するコマンド
プロフィール (システムが提供しているプロフィールおよび利用者が設定したプロフィール)	SAVPED コマンドで退避する.
ユーザ ID ファイル	E96 以降 : SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数 (値を変更後, IPL で元の値に戻る変数は対象としない)	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
利用者定義文字	CHARM コマンドまたは EXPCHR コマンドで退避する.
PLCA	E95 以降 : EXPPLCA コマンドで退避する.

WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)	SAVTMBR コマンドで退避する (V14 以降) .
接続管理情報	SIP メニューの「接続管理情報の退避」で行う. またはソース形式に変換し, SAVMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書 」 を参照して退避する.
Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産	SAVTMBR コマンドで退避する.
RDB 辞書	同じ磁気ディスク装置を使う場合, DLTRDD コマンドで RDB 辞書を削除する.
バックアウトファイル	DSPBOF コマンドの表示内容を控えておく.
文字コード変換表ファイル (利用者が標準コード変換機能に追加した文字コード の対応関係が格納されたファイル)	SAVFILE コマンドで退避する.

修正箇所 (章節項) : 新しい項「2.4.19 文字コード変換表ファイルの退避」の追加

旧記事

新記事

2.4.19 文字コード変換表ファイルの退避

標準コード変換機能に文字コードの対応関係を追加している場合, 文字コード変換表ファイル(XCDCVTBL.XCRMLIB)を SAVFILE コマンドで退避する.

例:

文字コード変換表ファイルを DVD-RAM ディスクに退避する.

```
SAVFILE FILE-XCDCVTBL.XCRMLIB,TODEV-DVD4470
```

修正箇所 (章節項) : 2.7 利用者環境の復元/設定

旧記事

2.7 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある.

- ・ SAVPED コマンドで退避したプロフィール環境
- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ 利用者定義文字
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ RDB 辞書

- ・ 管理ファイル
- ・ システム情報表
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)
- ・ SIP の接続管理情報
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産
- ・ バックアウトファイル

新記事

2.7 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある.

- ・ SAVPED コマンドで退避したプロフィール環境
- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ 利用者定義文字
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ RDB 辞書
- ・ 管理ファイル
- ・ システム情報表
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)
- ・ SIP の接続管理情報
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産
- ・ バックアウトファイル
- ・ **文字コード変換表ファイル**

修正箇所 (章節項) : 新しい項「2.7.21 文字コード変換表ファイルの復元」の追加

旧記事

新記事

2.7.21 文字コード変換表ファイルの復元

SAVFILE コマンドで退避された文字コード変換表ファイル(XCDCVTBL, XCRMLIB)を RSTFILE コマンドで XCRMLIB ライブラリに復元後, GENCDTBL コマンドで UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

例:

DVD-RAM ディスクから文字コード変換表ファイルを復元する.

```
RSTFILE FILE-XCDCVTBL,XCRMLIB,TOLIB-XCRMLIB,DEV-DVD4470
```

例:

UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

```
GENCDTBL
```

修正箇所 (章節項) : 3.2.1 対象となる利用者環境 表 3.1 利用者環境項目一覧(バージョンアップ移行)

旧記事

表 3.1 利用者環境項目一覧(バージョンアップ移行)

利用者環境	退避方法
ユーザ ID ファイル	SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
接続装置情報	SIP 保守メニューの「接続管理情報の退避」で行う.
PLCA	EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書」を参照して退避する.

新記事

表 3.1 利用者環境項目一覧(バージョンアップ移行)

利用者環境	退避方法
ユーザ ID ファイル	SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.

接続装置情報	SIP 保守メニューの「接続管理情報の退避」で行う。
PLCA	EXPPLCA コマンドで退避する。
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する。
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する。
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する。
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する。
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する。
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書」を参照して退避する。
文字コード変換表ファイル(利用者が標準コード変換機能に追加した文字コードの対応関係が格納されたファイル)	SAVFILE コマンドで退避する。

修正箇所 (章節項) : 新しい項「3.2.13 文字コード変換表ファイルの退避」の追加

旧記事

新記事

3.2.13 文字コード変換表ファイルの退避

標準コード変換機能に文字コードの対応関係を追加している場合、文字コード変換表ファイル(XCDCVTBL.XCRMLIB)を SAVFILE コマンドで退避する。

例:

文字コード変換表ファイルを DVD-RAM ディスクに退避する。

```
SAVFILE FILE-XCDCVTBL.XCRMLIB,TODEV-DVD4470
```

修正箇所 (章節項) : 3.4 利用者環境の復元/設定

旧記事

3.4 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある。

- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ RDB 辞書
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ Webjet 運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境

- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ スプール運用環境
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境

新記事

3.4 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある.

- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ RDB 辞書
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ Webjet 運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ スプール運用環境
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ **文字コード変換表ファイル**

修正箇所 (章節項): 新しい項「3.4.19 文字コード変換表ファイルの復元」の追加

旧記事

新記事

3.4.19 文字コード変換表ファイルの復元

SAVFILE コマンドで退避された文字コード変換表ファイル(XCDCVTBL.XCRMLIB)を RSTFILE コマンドで XCRMLIB ライブラリに復元後, GENCDTBL コマンドで UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

例:

DVD-RAM ディスクから文字コード変換表ファイルを復元する.

```
RSTFILE FILE-XCDCVTBL.XCRMLIB,TOLIB-XCRMLIB,DEV-DVD4470
```

例:

UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

```
GENCDTBL
```

旧記事

追加

新記事

第4章 非互換点

この章では、旧システムから新システムに移行する場合の非互換点の概要と必要な処置について説明する。

【目次】

- 4.1 非互換一覧 ☆
- 4.2 ADJUSTTM コマンド
 - <<中略>>
- 4.109 SymfoNET/基本運用 ☆
- 4.110 PowerRW+ ☆
- 4.111 NSS の起動

旧記事

追加

新記事

表 4.3 非互換一覧表(続き)

非互換項目	非互換がある移行元 E/V
証跡ログ機構	V25
ジョブ共通変数	~ V14 ~ V19 ~ V19
	@ECXBUFS @DBBUFF @DBINFO
ジョブの RSIZE (実記憶の大きさ)	~ E98
接続管理情報	~ E98, ~ V28
装置記述の定義モデル名	~ V18
装置情報操作機能	~ V16
装置定義 (リモートフロッピー)	~ V13, ~ V28
多階層ルートライブラリ	~ E93
ディスクの自動ベリファイ機能	~ V27
電源スケジュール情報の期限切れ	~ V23
内蔵 FPD 装置	全 E/V
光磁気ディスク装置	~ V16, ~ V22
光磁気ディスクボリューム (保管形式) の復元順番	~ V10
日付入力	~ E94
非同期メッセージ通信	~ V26
富士通標準形式 FPD	~ V28
ファクシミリメディアサービス/FAX-Link	~ V19

メールサービス関連	～ E93
メモリプールの制御方式	～ E98
ユーザ ID/グループ ID	～ V11
ユーザ情報ファイル	～ V13
リエントラントプログラム領域 (RPA)	～ E98
リソースコンバータ	～ V20
レプリケーションサービス	～ V16
ワークステーションログ	V25 ～
NSS の起動	～ V16

表の読み方は以下のとおり。

単一 E/V 記載 (Exx) : 記載した E/V から新システムへの移行時に非互換

複数 E/V 記載 (Exx ～ Exx) : 記載した E/V の旧システムから新システムへの移行時に非互換

全 E/V : すべての旧システムから新システムへの移行時に非互換

修正箇所 (章節項) : 4.111 NSS の起動

旧記事

新規追加

新記事

4.111 NSS の起動

1) 非互換点

V17 以降のシステムにおいて NSS を起動する場合、拡張多階層ライブラリ運用環境を使用する。

2) 処置

移行前システムにおいて、基本多階層ライブラリ運用環境で運用されていた場合、拡張多階層ライブラリ運用環境へ移行する。また、システム共通変数@TMSROOT の値を@TLIBEX に設定する必要がある。

拡張多階層ライブラリ運用環境への移行方法については、“3.4.6 多階層ライブラリ運用環境の設定”を参照されたい。